

3. トピックス 新設備導入による環境への対応

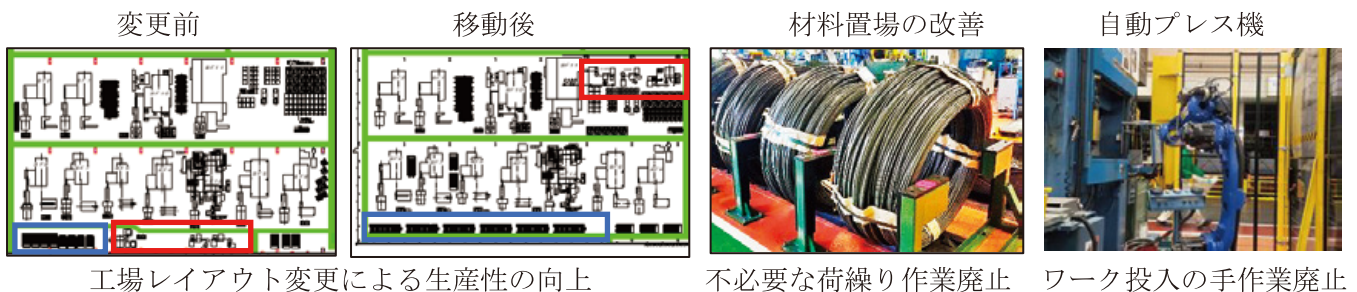
■知多工場 プレス自動化及びレイアウト変更による省人化と作業負荷軽減

スラグ事業部では、工場内の省人化と作業改善を図るため、プレス機のワーク投入自動化ロボットの導入とそれに伴う工場レイアウトの変更、材料置場の改善を行いました。

ワーク投入ロボットの導入により、作業者が手で行っていたプレス機へのワーク投入作業を自動化させ、プレス機オペレータの作業負荷を軽減しました。それに付随して、プレス機のワーク投入作業を行っていた作業者がセンタレス・グラインダーを並行して稼働できるようになりました。

また、材料置場の改善では、今まで重ねておいていた材料を1コイルずつ置く仕切りタイプに変更することで、スラグフォーマー機へベルトスリングで給材する為のCフックを用いた不必要な荷繰り作業とコイルの隙間調整等のクレーン作業を廃止しました。

以上により、作業工数を減らし、生産性を向上することで使用エネルギーの削減につなげています。



改善効果

(1) 労働時間

- ・プレス機ロボット及び工場レイアウトの変更→217h/月の削減
- ・材料置場の改善→55h/月の削減 ・合計：272h/月の削減

(2) 労働生産性

21年上期実績 163.1 → 164.6 (kg/人・h) 1.6% (kg/人・h) の向上

■プリウス PHV および 充電設備の導入

プリウス PHVを昨年11月本社工場の管理本部に導入し、12月には本社工場、知多工場へ充電設備を設置しました。さらに今年の4月には磨棒鋼管営業部に2台目を導入しました。

コロナウィルス感染症・半導体不足により遅れていますが、知多工場の営業部門にも導入を予定しています。また、BCP対策の一貫として、災害時の電力供給（一般家庭の4～5日分程度）としても活躍が見込めます。

今後は、地球温暖化対策・カーボンニュートル対応に向け、PHV・電気自動車に切り替えて行く予定です。

